



新年を祝う行事を開催 ～出初式・新年祝賀会～

1月6日(土)古牧公民館で令和6年の消防団長野第六分団出初式と住民自治協議会新年祝賀会が4年振りに開催されました。

当日は、未だ感染症の終息が見えない中で、参加者を制限して市議会議員、各種団体長、住民自治協議会役員、区長、副区長、消防団員が出席し、冒頭、参加者全員で1月1日に発生しました能登半島地震で犠牲となられた方々に黙祷を捧げて2部形式で行われました。

第1部では、消防団長野第六分団主催の出初式が行われ、岡田健次郎分団長からコロナ禍の中で久しぶりに地域の皆さんが集まり出初式が開催できたことへの喜びのあいさつの後、日頃から、古牧地区を火災などから守るために活動している永年勤続の分団員6名に長野鶴賀消防署東部分署青柳修司署長から表彰伝達がありました。最後に参加者一同が火災予防を祈り「火の用心」を三唱して出初式を終了しました。日頃の消防団の活動に感謝して



の出初式となりました。

続いて、第2部では、住民自治協議会主催の新年祝賀会が行われ、田中邦夫会長のあいさつの後、来賓として出席した金澤敦志市議会



議員からお祝いの言葉があり、児嶋孝相談役の音頭でお酒ではなくお茶で乾杯が行われ新年の行事の締めくくりとして、感染症や災害などの災いを取り除き、古牧地区の皆さんに大きな福が来ることを願い川端神楽保存会(倉石修嗣郎会長)の皆さんによる獅子舞が披露され、新たな年が始まりました。

(総務部)



男性の珈琲教室を開催

11月17日(金)～12月8日(金)間の4回にわたり古牧公民館で男性の珈琲教室が開かれました。カフェボラ善代表丸山幹雄様を講師に、

趣味を生かして地域づくりのお手伝いをしませんか「出前カフェに挑戦」と題して、珈琲の
次頁につづく

前頁のつづき
知識や淹れ方などを学びました。

第1回は珈琲豆の基礎知識です。珈琲の発見は9世紀エチオピアの山羊飼いの少年が発見した説と13世紀アラブイェメンのお坊さんがスープにして食べると疲れが取れて元気になった説の二つがあるようです。珈琲の3原種はアラビカ種(市場の豆の75%)・ロブスタ種(缶コーヒーの材料)・リベリカ種(生産量が少ない)があります。焙煎には8段階、ライト浅煎り・シナモン・ミディアム中煎り・ハイ・シティ・フルシティ・フレンチ・イタリアン深煎りがあります。

第2回は実践で焙煎、豆挽き、ドリップをし



ました。生豆をフライパンで煎りますがこの時に良い香りがしてきます。焙煎時に出る薄皮を吹き飛ばし、しばらく冷ましたあとミルで豆を挽きドリップで淹れて皆で味わいました。

第3回は代替珈琲を味わうです。どんぐり3種クヌギの実・榎の実・椎の実を焙煎、豆挽き、ドリップして味を確認しましたがどれも微妙な味わいでした。

第4回はグループごとに珈琲を入れ美味しさを評価します。どのグループもそれぞれに趣きが有り楽しい教室でした。

12月16日(土)の福祉大会では「男性の珈琲教室」の講師、受講者で珈琲の提供を行いました。(福祉健康部)

古牧地区福祉大会 ～つどおうつながろう わがまちこまき～

12月16日(土)古牧公民館で令和5年度古牧地区福祉大会が開かれました。

従来の古牧地区の福祉大会は、福祉関係者の参加で大会を行ってきました。コロナ禍の令和2年・3年は集うことができず大会を開催できませんでした。令和4年は高齢者をはじめ、住民の皆様の健康づくりとして、講演と実技ポールウォーキング、「体力・健康チェック」を古牧体育館で行われました。

今年は4年振りの大会となります。従来の目的である「知ろう・学ぼう」に加えて住民の皆様が気軽に立ち寄れる「つどおう つながろう わがまちこまきの地域福祉フェスタ」として開催しました。

開会式では、古牧住民自治協議会田中邦夫会長のあいさつ、ご来賓祝辞あいさつの後、動画で古牧地区福祉活動の紹介がありました。他地区と交流事業での映像では和みながら活動している姿が映されて楽しそうでした。また、文化企画として清泉女学院短期大学の山崎浩先生による講座「音楽リフレッシュ～明



音楽リフレッシュ会場

日も笑顔でいるために～)が開かれました。先生による楽しい講義と昭和40年代の歌謡曲をピアノ伴奏によりみんなで歌い会場全体が盛況でした。

和室では地域包括支援センターニチイケア高田の皆さんによる「介護なんでも相談～高齢者の介護と福祉の相談窓口～」が開かれ高齢者の皆さんが住み慣れた地域で安心して自分らしい生活を継続して行くことができるように、介護保険・介護予防・高齢者の権利擁護などの相談に応じていました。

学習室では3か所のブースコーナーが設け



お口の相談コーナー

定器を使ってバランスチェックと足の相談及び靴選びについて、お口の相談コーナーでは歯科衛生士陶山百合子様「きれいで・よく噛める・よく動く」オーラルフレイル予防につい

られ、「自分の足に合った靴選び」コーナーでは足裏バランス測

て、「血管年齢測定・野菜摂取量チェック」コーナーでは先端の健康測定器で参加者自身の健康状態チェックが行われました。

その後、みかん行政書士事務所様を講師に「頼れる家族がいなくても自分らしい人生を送るために」と題して相続と遺言、亡くなった後の事務委任、見守りと任意後見を寸劇でわかりやすくお話しをしていただきました。

調理室では「男性の珈琲教室」受講者によるカフェが開かれ、コーヒーのふるまいもありました。(福祉健康部)

ふるさとふれあいタイムズを発行

青少年育成部が中心となって取り組んだ広報誌「ふるさとふれあいタイムズ」(第3号)を1月上旬に発行し、各ご家庭にお届けいたしました。

「ふるさとふれあいタイムズ」は、新型コロナウイルス感染症の拡大により交流行事が開催できない状況が続く中、古牧地区にお住いの皆様に地区の伝統、文化、各地区の世代間交流行事を少しでも知っていただくことを目的に創刊されました。

昨年度までは、世代間交流行事を計画したものの感染拡大により止む無く開催を見送った地区や、参加人数をごく少数に制限する形で行事を開催した地区もありましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行されたことにより、住民同士の交流行事が再開される流れとなりました。各地区の取り組みは様々ですが、いずれの地区も感染防止に配慮し、安心して楽しんで

いただく方法を模索した上で、多くの方々にご参加いただく形で行事を開催することができました。

是非「ふるさとふれあいタイムズ」をお手に取っていただき、まずはご自身のお住いの地区のページを開いてみてください。そこに掲載されている行事のことをご存知でしょうか。また、お隣の地区の行事はいかがでしょうか。知らない取り組みがたくさん掲載されているのではないのでしょうか。「ふるさとふれあいタイムズ」が、私たちの「ふるさと」である古牧地区について知り、大切に思うきっかけとなれば幸いです。

最後となりましたが、行事開催にあたり、ご協力を賜りました各地区関係者の皆様に心より御礼申し上げます。(青少年育成部)



歴史探索

ぐるりわがまち

荒屋区

清吟庵一鳳翁之寿碑

古牧郷土史研究会 西沢 征防

荒屋の西沢重之氏宅庭には台座を含めると高さ3mほどの立派な石碑があり、表には上記の刻みがある。(写真)裏には昭和24年建立

とあり、寄贈者68名の名が銅板に刻印されている。

次頁につづく

前頁のつづき

これは謡曲の師匠である西沢隆義氏を讃えて弟子が設立したものであり、会の名は「清吟会」と称した。毎月定期的に自宅で指導していたが、この近辺の人は農業に従事する者が多



かったので農閑期である冬の稽古は特に頻繁に行われた。町の人々にも教えていたが、門弟の合同発表会場としては平林の寺、宝樹院を借りた。また、自己研鑽のため「正風会」に属した。

平林公民館集会室には「観世流謡曲隆明会」が作成した謡曲「猩々」の一節が墨



書された額とその説明板がある。(写真)「隆明会」の「隆」は西沢隆義氏から、「明」は平林の佐藤千明氏からとったものであり、佐藤氏は自宅で国鉄の平林工場に勤めていた人々を中心に教えた。

なお、碑銘にある「一鳳」は生け花の師匠である玉木五作(一鳳斎)氏から授かったもので、「定桐斎一鳳」と号し插花も教えた。(西沢重之様・佐藤房雄様からお話を伺いました。)

娑婆鉛筆

我が家の庭には両親が植えた木があり、私は勤めの都合で植木の手入れなど全くのノータッチであった。両親がグループホームでお世話になるようになってから植木の面倒を見る者がいなくなり、結果的に役割が回ってきた。とは言うものの植木の手入れなど行った事がなく、勤め先で多少関係する仕事に携わった事もあったが、実際は協力会社の方に丸投げ状態だったので、知識技術ともゼロである。梅以外は木の名前もわからず、消毒に来て頂いた方に教わって初めて知った始末で、お粗末の極みである。梅、五葉松ほか4種ほどあり樹高もそれなりなので、自分の背丈ちょっと程度の高さまで剪定したいと考えた。この高さは家にある脚立で天板上に上らない範囲

てんまつ

にわか庭師の顛末は如何に

で手入れ可能な高さであり、勤め先の安全担当であった頃「脚立の天板には絶対上らない」なんて偉そうに指導していたものの、先日、居間の照明をLEDに取り換えるにあたり、脚立の天板上でバランスを崩して落下し、少々痛い目に遭った自身の苦い経験によるものである。剪定の方法、時期はネットの動画サイトに多数投稿されており、それらに習いやってみた。必要な情報が簡単に手に入る便利な世の中だ。剪定時期が春頃らしい金木犀は手を付けず、結果「このくらい切っても大丈夫だな…」と90Lゴミ袋7個分ほどバツサリ。「春になったら木の数が減ってしまった…」なんてならない事を祈る今日この頃である。

(竹村正宏)

2月から3月までの主な行事実施日のお知らせは回覧等でお知らせします。



古牧地区の世帯数と人口

令和6年1月1日現在

11,814世帯

(男 13,006人

26,234人

女 13,228人)

■発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話 259-8359・FAX 219-1057)
(E-mail: komaki@vivid.ocn.ne.jp)

■発行者 田中 邦夫
■編集 ぷらネットこまき編集委員会
■印刷 SR



HP
ご覧ください